

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 福井 恵里

1. 日 時 令和6年11月22日 第5時限 14:00～14:45

2. 場 所 第2年1組教室

3. 学年・組 第2学年1組(26名)

4. 単 元 名 おもちゃの作り方をせつめいしよう

教材文:「紙コップ花火の作り方」

「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(光村図書)

5. 単 元 目 標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・身近なことを表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。【(1)オ】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。【(2)ア】	・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。【B書くこと(1)ウ】 ・時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。【C読むこと(1)ア】 ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【C読むこと(1)ウ】 ・文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつことができる。【C読むこと(1)オ】	・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

書き手の視点になって考え、文章の中の重要な語や文を考え選び出し、学習したことを生かして、おもちゃ作りの解説動画を作る。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。【(1)オ】	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を	・事柄の順序に沿って粘り強く内容の大体を捉えたり構成を考えたりして学習課題に沿って相手に伝えるためにおも

②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】	工夫している。 【B書くこと(1)ウ】 ②「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。【C読むこと(1)ア】 ③「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【C読むこと(1)ウ】 ④「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。【C読むこと(1)オ】	ちやの作り方を説明する文章を書こうとしている。
---	--	--------------------------------

8. 指導にあたって

(1)児童観

児童は、これまでに説明的な文章の学習として、二年生では「たんぽぽのちえ」、「どうぶつ園のじゅうい」を学習した。「たんぽぽのちえ」の学習では、時間的順序を表す言葉に着目しながら、叙述と挿絵を結び付けたり、たんぽぽの様子を動作化したりして読み取った。そして、本文に書かれているたんぽぽの成長過程の中で「自分が一番すごい」と思ったちえについて、『はじめて知った』『ふしぎ』『かしこい』『かっこいい』『びっくり』の五つの視点から一つを選び、自分の考えと理由を交流した。交流時、自分の考えが五つの視点の内のどれに該当するのかはっきりしない友だちに「すごい中身を教えて。」「どうしてすごいと思ったの。」と追質問しながら、友だちの考えを理解しようとする姿が見られた。質問に答えることで、自分の考えがはっきりする児童も見られ、交流の良さを振り返りに書くことができていた。

「どうぶつ園のじゅうい」の学習では、「単元で学習したことをもとに、筆者の心の中を表した言葉を文章に付け足し、より分かりやすい教科書を作ろう。」という単元のゴールを設定した。筆者の「獣医としての一日」が書かれた本文にまずは読み手として触れ、筆者の仕事への熱意、動物への愛情、仕事にかける思いを読み取っていった。読み取る際は、「たんぽぽのちえ」と同様に、場面を情感的に捉えられるように吹き出し法を使用して学習を進めた。筆者の仕事への熱意や動物への愛情、仕事にかける思いを吹き出し法を使い学習することで、筆者の心情が読み手に伝わるか考えながら表現することに挑戦した。その後、読み取った筆者の心情をもとに、本文に筆者の心の中を表した言葉を書き足す活動を行った。児童の振り返りでは「本文に筆者の心の声を付け足すことで、より筆者の頑張りが伝わったと思う」と書き手の視点で書いている児童が多く見られた。

書くことに関して、これまでに生活科と関連して、「かんさつ名人になろう」「こんなもの、見つけたよ」で、それぞれ、観察文、紹介文などの形式でかくことを学習してきた。しかし、わか

りやすく説明する文章を書くことや順序に沿って書くことについてはまだまだ経験がないため、この単元で丁寧に指導したい。これまでの学習で、読み取った情報を使って文章を書くことを積み上げている。このことを生かして、考えた構成をもとに文章を書けるようにしたい。また、本単元でも、相手意識・目的意識を明確にし、順序に沿って伝えたいことを相手にわかりやすく説明する文章を書く力を身に付けさせたい。

(2)教材観

本単元の学習は、教材文「紙コップ花火の作り方」と作例「けん玉の作り方」から説明の工夫を見つけることから始める。教材文の工夫をいかし、おもちゃの作り方の説明をすることを単元のゴールとしている。また説明文を読み、その説明の工夫をいかして書くという領域複合的な単元でもある。一年生の「じどう車くらべ」を読んで「じどう車ずかんをつくろう」に取り組んだ。二年生では「たんぼぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」で、順序に注意したり、文章と写真を対比させたり、大事な言葉を見つけたりと、工夫して読み進めた。

本教材で扱う「おもちゃ作り」は、児童が意欲的に書いたり読み合ったりすることができる題材である。作り方を参考にしておもちゃが仕上がるかどうかで正しく読み取れているかがはっきり分かるため、細部を確かめながら読む必要がある。教材文は、前書きの他、〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉の三つの部分から構成されている。前書きでは、一文目で「紙コップ花火」を紹介し、二文目で手軽に作ることができるおもちゃであることを明示している。〈ざいりょうとどうぐ〉では、必要な材料と道具が列挙されており、上部の写真と対応させて確認することができる。〈作り方〉は五つの段落で構成され、花火のメインとなる部分を作り、順に作成していく手順が記述されている。各段落の一文目にはその段落で作成する部分、作業を端的にまとめられ、二文目以降に具体的な作業内容やコツが示される構成になっており、写真も七枚提示されている。文章を読んで分かりづらいときは、写真に目印を入れたり、矢印で順序を明示したりできて、文章的にも視覚的にもより分かりやすくなっている。〈楽しみ方〉では、作成したおもちゃの使い方が、まとめて一文で書かれている。さらに、動かす方向を示した写真を使用することで、動かし方を視覚的にも捉えることができるようにしている。

全体を通して、文章の組み立ては、作り方の手順を分かりやすく説明するために順序を意識して書かれている。つまり、読み手のことを意識した書き方となっているのである。「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」といった冒頭の言葉や、「～のぶぶん」「かきおわったら」「一センチメートルのはばで」などの説明の言葉が、筆者の工夫である。それらに書き手としての意識に気付き、自分でおもちゃの作り方を書く際に生かせるように言葉がけをしていきたい。

(3)指導観

指導にあたっては、読み手のことを考えた分かりやすく伝わりやすい文章を書くことを目標とした。児童の将来の夢の候補として YouTuber という職業が挙がることが多い時代であり、学習したことを知らせたい・見てほしいという気持ちを持っている児童が本学級に多いこと。それらの理由から、興味・関心を強く持てる「自分の選んだおもちゃの作り方をヤーチューブ（本単元の学習のために作った架空の動画配信サービスの名称）にアップしよう」を単元のゴールとし、授業を展開

していく。

「どうぶつ園のじゅうい」の学習で筆者の心を書き足す活動を行った際、書き手として大切なことは何か、どうすれば読み手に伝えたいことが伝わるのか、言葉を精査しながら児童は取り組んでいた。今回は動画を作ることが単元のゴールである。限られた時間で必要な情報を伝えるため、要点をまとめて文章化することがもとめられる。

第一次では、既習の説明的文章の特徴について振り返る。順序を表す言葉の使い方や文章の構成など、読み手として獲得した知恵を確認し、書き手になってもいかせるようにする。単元のゴールにつながるよう、自分がこれまでに作ったことのあるおもちゃ、作ってみたいと思うおもちゃについても意見を出し合う。

本時では、教材文の資料と教師の作成したエラーモデルを見比べ、教材文「紙コップ花火の作り方」にはどんな秘密が隠されているのかを探っていく。お手本とエラーモデルの細部を見比べて「何が違うの?」「どうしてそうなったの?」と興味をもち、楽しんで読み進めていくことが予想される。「知りたい」「間違いは何だ」という気持ちを損なわないように本文に返し、「向き」「長さ」「場所」などの「作る際に落としてはいけないひみつ」を児童と見つけていく。

紙コップ花火を実際に作る際も、見つけたひみつをいかしていきたい。また、挿絵の写真と本文を対応させられることが、読み手にとってどんな影響があるのかにも触れておきたい。

第二次では、第一次で気づいた言葉がどのように書き表され、どのような役割を担っているのかを学習する。本文では、作り方に対応する挿絵が示されている。前後の段落や挿絵と結びつけながら、順序や数、長さ、位置を表す言葉といった筆者の書きぶりだけでなく、挿絵を使うことでおもちゃを作る工程を想像しやすくなることにも気づかせたい。

第三次では、教師が提示した三つのおもちゃの中から自分が紹介したいおもちゃを選ぶ。自分が決めたおもちゃの作り方を紹介する説明文を作成する。実際におもちゃを作る活動を通して、どんな言葉を使えばより簡単におもちゃを作ることができるかについて考える。その際、必要な手順を確認・整理し、内容が混在しないように構成を考えさせたい。その後、自分が決めたおもちゃの作り方の手順を動画で撮影する。撮影した動画を友だちと見せ合い、説明の分かりやすいところや分かりにくいところについて話し合う。自分の動画を友だちと見せ合うことでより分かりやすい動画へと作り上げていく。

本単元で学習したことを自分が説明したいおもちゃの動画に適用することで、知識を定着させ、自分の考えを人に伝えるという経験を日常生活にも生かしてほしい。

9. 単元の指導と評価の計画（全 13 時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	・ 既習の説明的文章を振り返る。 ・ 自分が今まで作ったことのあるおもちゃや、作ってみたいおもちゃを話し合う。 ・ 学習課題「自分の選んだおもちゃの作り方をヤーチューブにア				

	2	・写真と本文の内容を見比べながら、紙コップ花火づくりを成功させるための重要な言葉をワークシートに書く。【本時】		◎	○	・文章全体からおもちゃが作りやすいと感じた言葉を考えながら内容の大体を捉えている。 【思・判・表②】〈ノート〉
	3	・教材文や写真を基に紙コップ花火を作る。				
	4					
2	5	・〈〉を使った項目だてや、〈楽しみ方〉という表現のよさについて考える。	○	○		
	6	・教材文を読んで分かりやすく伝える説明の工夫を考える。	◎	◎		・おもちゃの作り方を説明する文章と挿絵の関係について理解している。 【知・技②】〈ノート〉
	7	・筆者の説明の工夫について、考えたことを伝え合う。				・順序を表す言葉や道具の扱い方を説明した文に着目して自分の考えを書いている。【思・判・表③④】〈ノート〉
3	8	・説明するおもちゃを決める。			○	
	9	・必要な材料を確認して実際に作る。			○	
	10	・おもちゃの作り方を確かめる。				
	11	・おもちゃの作り方を説明する文章を書く。	◎	◎	◎	・おもちゃの作り方を分かりやすく伝える工夫を生かして文章を書き表している。【知・技①】〈ノート〉
	12	・自分の選んだおもちゃの作り方を動画で撮り、YouTubeにアップする。		◎		・これまで学習してきた筆者の分かりやすく伝える工夫を生かして、文章に書き表している。
	13	・おもちゃの作り方を説明する文章を交流する。				【思・判・表現①】〈ノート〉 【主】〈ノート〉

10. 本時の展開(3/13 時間目)

(1) 本時の目標

- ・紙コップ花火を作るための大切な言葉に気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・紙コップ花火を作るための大切な言葉に気付いている。【思考・判断・表現②】

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 単元のゴール「自分の選んだおもちゃの作り方をヤーチューブにアップしよう。」を確認する。 2. 教師が作成したエラーモデルを見て感想を持つ。 3. 本文を読む。	・単元のゴールに向かって動機付けをし、学習の方向性を示す。	
紙コップ花火の作り方のひみつを見つけよう		
4. 写真と本文の内容を見比べながら、紙コップ花火づくりを成功させるための重要な言葉をワークシートに書く。 5. グループで交流し、理由も伝え合う。 6. 振り返り	・本文とエラーモデルを見比べ着目点を明らかにさせる。 ・何度も読み返した言葉に注目させる。 ・おもちゃが仕上がるかどうかで正しく読み取れているかがはっきり分かるため、細部を確かめながら読む必要があることを確認する。 ・自分も書き手の立場に立ち、おもちゃの作り方を説明する文章を書く意欲をもたせる。	・文章全体からおもちゃが作りやすいと感じた言葉を考えながら内容の大体を捉えている。 【思・判・表②】〈ノート〉

(4) 本時の判断基準

本時における具体的な児童の状況（※本時の評価基準にかかわる場面において）

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
・順序や場所がわかる言葉など筆者の工夫が表れている書きぶりに気づくことができる。	・筆者の工夫が表れている書きぶりを見つける際に、手がかりとなる掲示物を提示する。